



そのたましいは
自分のために嘆くだけです。

- 14:13 ああ、あなたが私をよみに隠し、
あなたの怒りが過ぎ去るまで私を潜ませ、
私のために時を定め、
私を覚えてくださればよいのに。
- 14:14 人が死ぬと、生き返るでしょうか。
私の苦役の日の限り、
私の代わりの者が来るまで待ちましょう。
- 14:15 あなたが呼んでくだされば、
私は答えます。
あなたはご自分の手で造られたものを
慕っておられるでしょう。
- 14:16 今、あなたは私の歩みを
数えておられますが、
私の罪に目を留めず、
- 14:17 私のそむきの罪を袋の中に封じ込め、
私の咎をおおってください。
- 14:18 しかし、山は倒れてくずれ去り、
岩もその所から移される。
- 14:19 水は石をうがち、
大水は地の泥を押し流す。
そのようにあなたは
人の望みを絶ち滅ぼされます。
- 14:20 あなたは、いつまでも
人を打ち負かすので、
人は過ぎ去って行きます。
あなたは彼の顔を変えて、
彼を追いやられます。
- 14:21 自分の子らが尊ばれても、
彼にはそれがわからず、
彼らが卑しめられても、
彼には見分けがつきません。
- 14:22 ただ、彼は自分の肉の痛みを覚え、

ヨブのように、苦しみのどん底にあって救いを
求めるときには、それは無意識に主イエスの救い
を求めることになります。すなわち、「よみに
隠」れるようにして十字架で死に、「生き返る」
という永遠のいのちが与えられることです。
十字架の救いの事実がはっきりしてくるなら、
どのような苦しみの中にあっても、自分が神の愛
の中にいることが分かってきます。「望みが絶ち
滅ぼされ」るようでも、死後に「見分けが」つか
ないよう感じて、その絶望を超える希望が与え
られるのです。
そのことを信じて、ちいさな失望の中にも、十
字架からの希望を見出してみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願い
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

